

うしろ ばる い せき 後原遺跡 1

～発掘された白木原村～

大野城市教育委員会



平成8年の地図 (1/25,000)



明治35年の地図 (1/20,000)

上の2枚の地図をご覧ください。これは、明治35年(1902年)と平成8年(1996年)の白木原地区周辺の地図です。江戸時代の名残を残していた明治時代から、大正・昭和・平成と3つの時代を経てきた94年の間に街の状況は一変しました。ここで取り上げる後原遺跡は白木原1丁目に広がる遺跡で、明治時代よりさらに一時代古い江戸時代の遺跡が見つかりました。その内容について、以下でご説明します。

後原遺跡は、平成6年に白木原1丁目交差点から南へのびる道路を建設する際に見つかった遺跡で、それまではここに遺跡があるとは予想されなかった場所でした。それから平成10年まで12カ所の調査がおこなわれ、遺跡の範囲や内容が明らかになってきています。



1には小さく丸い穴がたくさん見えます。これは建物の跡で、ここには家屋があったと考えられます。



2は1の写真の左奥にあった井戸で木で作った井筒の周りに、竹で編んだカゴのようなものを巻いています。



3は浅く掘った穴に打ち欠いた甕を据えています。便所ではないかと考えられます。



4は墓です。直径1mくらいの円形の穴に、大きな甕を据えています。甕の他、円形の桶(早桶)も使われていました。

1から4で見たような遺構からは、たくさんの陶磁器が出土しました。その年代を調べると18世紀から19世紀のもので、これは江戸時代の後半にあたります。

古文書によれば、江戸時代、地祇神社の周囲には村が広がっていたことがわかっています。また、明治35年の地図を見ると、神社の周囲に村が広がっており、ここは白木原村の本村にあたります。したがって、後原遺跡で見つかった江戸時代の遺構や遺物は、白木原村の跡であると考えられます。

江戸時代の後半にあたる享和二年(1802年)の記録によれば、白木原村は家数19戸・人口84人・石高263石の小さな村で、村人はすべて農民でした。村の範囲も、明治35年の地図に示された村の範囲とほぼ変わらなかったようです。現在、村の中でも墓のあった範囲や集落の広がる範囲などが明らかになりつつあります。今後の発掘調査により、さらに詳しく白木原村の様子が明らかになってくることでしょう。